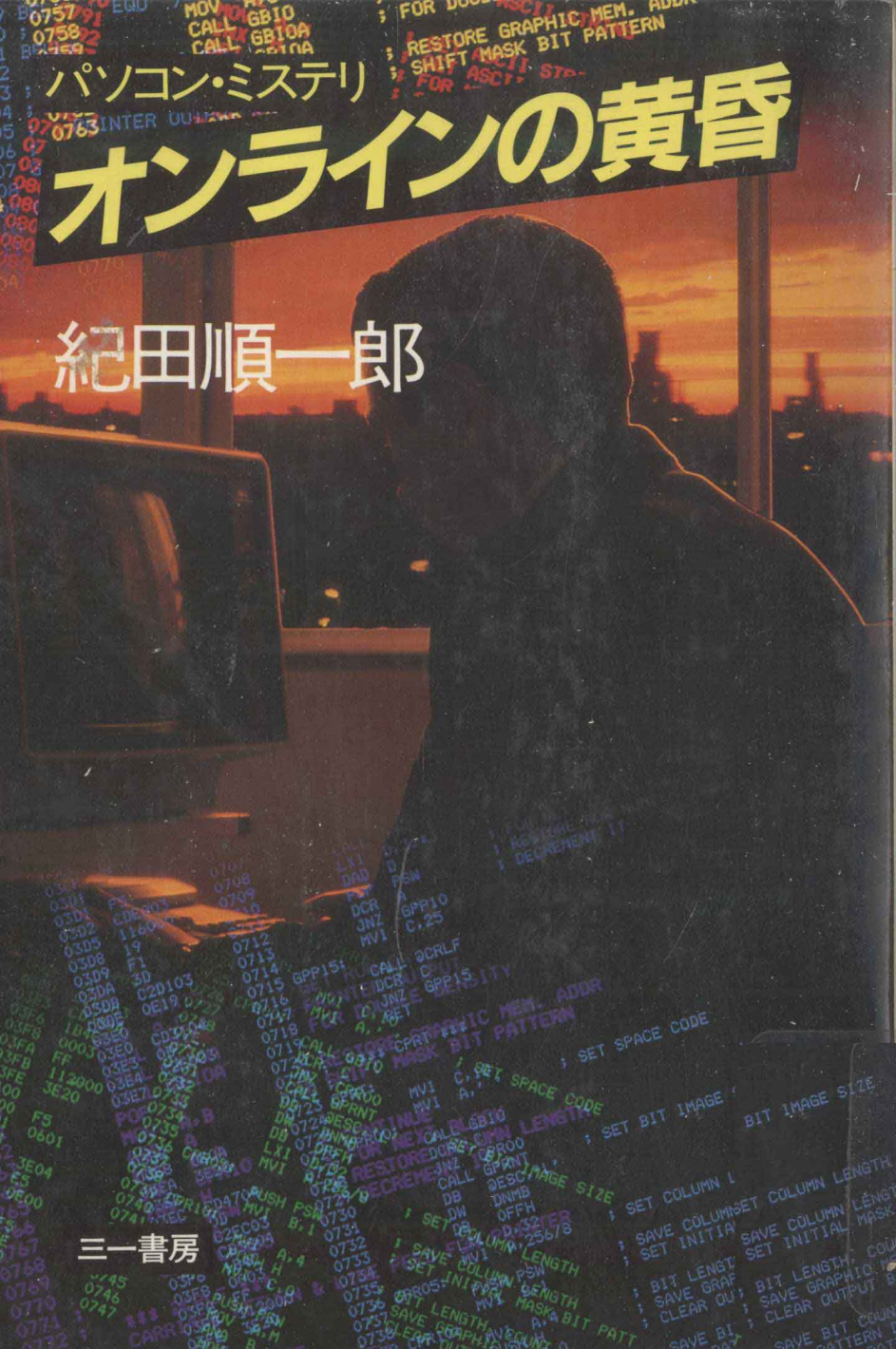


パソコン・ミステリ

オンラインの黄昏

紀田順一郎

三一書房



MOV AX, 0000
CALL GB10
CALL GB10A
FOR DOOR, ASCI
RESTORE GRAPHIC MEM. ADDR
SHIFT MASK BIT PATTERN
FOR ASCI, STD
EGD
0757
0758
0759
0763
INTER
0701
0702
0703
0704
0705
0706
0707
0708
0709
0710
0711
0712
0713
0714
0715
0716
0717
0718
0719
0720
0721
0722
0723
0724
0725
0726
0727
0728
0729
0730
0731
0732
0733
0734
0735
0736
0737
0738
0739
0740
0741
0742
0743
0744
0745
0746
0747
0748
0749
0750
0751
0752
0753
0754
0755
0756
0757
0758
0759
0760
0761
0762
0763
0764
0765
0766
0767
0768
0769
0770
0771
0772
0773
0774
0775
0776
0777
0778
0779
0780
0781
0782
0783
0784
0785
0786
0787
0788
0789
0790
0791
0792
0793
0794
0795
0796
0797
0798
0799
0800
0801
0802
0803
0804
0805
0806
0807
0808
0809
0810
0811
0812
0813
0814
0815
0816
0817
0818
0819
0820
0821
0822
0823
0824
0825
0826
0827
0828
0829
0830
0831
0832
0833
0834
0835
0836
0837
0838
0839
0840
0841
0842
0843
0844
0845
0846
0847
0848
0849
0850
0851
0852
0853
0854
0855
0856
0857
0858
0859
0860
0861
0862
0863
0864
0865
0866
0867
0868
0869
0870
0871
0872
0873
0874
0875
0876
0877
0878
0879
0880
0881
0882
0883
0884
0885
0886
0887
0888
0889
0890
0891
0892
0893
0894
0895
0896
0897
0898
0899
0900
0901
0902
0903
0904
0905
0906
0907
0908
0909
0910
0911
0912
0913
0914
0915
0916
0917
0918
0919
0920
0921
0922
0923
0924
0925
0926
0927
0928
0929
0930
0931
0932
0933
0934
0935
0936
0937
0938
0939
0940
0941
0942
0943
0944
0945
0946
0947
0948
0949
0950
0951
0952
0953
0954
0955
0956
0957
0958
0959
0960
0961
0962
0963
0964
0965
0966
0967
0968
0969
0970
0971
0972
0973
0974
0975
0976
0977
0978
0979
0980
0981
0982
0983
0984
0985
0986
0987
0988
0989
0990
0991
0992
0993
0994
0995
0996
0997
0998
0999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1011
1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
1028
1029
1030
1031
1032
1033
1034
1035
1036
1037
1038
1039
1040
1041
1042
1043
1044
1045
1046
1047
1048
1049
1050
1051
1052
1053
1054
1055
1056
1057
1058
1059
1060
1061
1062
1063
1064
1065
1066
1067
1068
1069
1070
1071
1072
1073
1074
1075
1076
1077
1078
1079
1080
1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
1139
1140
1141
1142
1143
1144
1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1180
1181
1182
1183
1184
1185
1186
1187
1188
1189
1190
1191
1192
1193
1194
1195
1196
1197
1198
1199
1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
1216
1217
1218
1219
1220
1221
1222
1223
1224
1225
1226
1227
1228
1229
1230
1231
1232
1233
1234
1235
1236
1237
1238
1239
1240
1241
1242
1243
1244
1245
1246
1247
1248
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
1260
1261
1262
1263
1264
1265
1266
1267
1268
1269
1270
1271
1272
1273
1274
1275
1276
1277
1278
1279
1280
1281
1282
1283
1284
1285
1286
1287
1288
1289
1290
1291
1292
1293
1294
1295
1296
1297
1298
1299
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
1312
1313
1314
1315
1316
1317
1318
1319
1320
1321
1322
1323
1324
1325
1326
1327
1328
1329
1330
1331
1332
1333
1334
1335
1336
1337
1338
1339
1340
1341
1342
1343
1344
1345
1346
1347
1348
1349
1350
1351
1352
1353
1354
1355
1356
1357
1358
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
1368
1369
1370
1371
1372
1373
1374
1375
1376
1377
1378
1379
1380
1381
1382
1383
1384
1385
1386
1387
1388
1389
1390
1391
1392
1393
1394
1395
1396
1397
1398
1399
1400
1401
1402
1403
1404
1405
1406
1407
1408
1409
1410
1411
1412
1413
1414
1415
1416
1417
1418
1419
1420
1421
1422
1423
1424
1425
1426
1427
1428
1429
1430
1431
1432
1433
1434
1435
1436
1437
1438
1439
1440
1441
1442
1443
1444
1445
1446
1447
1448
1449
1450
1451
1452
1453
1454
1455
1456
1457
1458
1459
1460
1461
1462
1463
1464
1465
1466
1467
1468
1469
1470
1471
1472
1473
1474
1475
1476
1477
1478
1479
1480
1481
1482
1483
1484
1485
1486
1487
1488
1489
1490
1491
1492
1493
1494
1495
1496
1497
1498
1499
1500
1501
1502
1503
1504
1505
1506
1507
1508
1509
1510
1511
1512
1513
1514
1515
1516
1517
1518
1519
1520
1521
1522
1523
1524
1525
1526
1527
1528
1529
1530
1531
1532
1533
1534
1535
1536
1537
1538
1539
1540
1541
1542
1543
1544
1545
1546
1547
1548
1549
1550
1551
1552
1553
1554
1555
1556
1557
1558
1559
1560
1561
1562
1563
1564
1565
1566
1567
1568
1569
1570
1571
1572
1573
1574
1575
1576
1577
1578
1579
1580
1581
1582
1583
1584
1585
1586
1587
1588
1589
1590
1591
1592
1593
1594
1595
1596
1597
1598
1599
1600
1601
1602
1603
1604
1605
1606
1607
1608
1609
1610
1611
1612
1613
1614
1615
1616
1617
1618
1619
1620
1621
1622
1623
1624
1625
1626
1627
1628
1629
1630
1631
1632
1633
1634
1635
1636
1637
1638
1639
1640
1641
1642
1643
1644
1645
1646
1647
1648
1649
1650
1651
1652
1653
1654
1655
1656
1657
1658
1659
1660
1661
1662
1663
1664
1665
1666
1667
1668
1669
1670
1671
1672
1673
1674
1675
1676
1677
1678
1679
1680
1681
1682
1683
1684
1685
1686
1687
1688
1689
1690
1691
1692
1693
1694
1695
1696
1697
1698
1699
1700
1701
1702
1703
1704
1705
1706
1707
1708
1709
1710
1711
1712
1713
1714
1715
1716
1717
1718
1719
1720
1721
1722
1723
1724
1725
1726
1727
1728
1729
1730
1731
1732
1733
1734
1735
1736
1737
1738
1739
1740
1741
1742
1743
1744
1745
1746
1747
1748
1749
1750
1751
1752
1753
1754
1755
1756
1757
1758
1759
1760
1761
1762
1763
1764
1765
1766
1767
1768
1769
1770
1771
1772
1773
1774
1775
1776
1777
1778
1779
1780
1781
1782
1783
1784
1785
1786
1787
1788
1789
1790
1791
1792
1793
1794
1795
1796
1797
1798
1799
1800
1801
1802
1803
1804
1805
1806
1807
1808
1809
1810
1811
1812
1813
1814
1815
1816
1817
1818
1819
1820
1821
1822
1823
1824
1825
1826
1827
1828
1829
1830
1831
1832
1833
1834
1835
1836
1837
1838
1839
1840
1841
1842
1843
1844
1845
1846
1847
1848
1849
1850
1851
1852
1853
1854
1855
1856
1857
1858
1859
1860
1861
1862
1863
1864
1865
1866
1867
1868
1869
1870
1871
1872
1873
1874
1875
1876
1877
1878
1879
1880
1881
1882
1883
1884
1885
1886
1887
1888
1889
1890
1891
1892
1893
1894
1895
1896
1897
1898
1899
1900
1901
1902
1903
1904
1905
1906
1907
1908
1909
1910
1911
1912
1913
1914
1915
1916
1917
1918
1919
1920
1921
1922
1923
1924
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931
1932
1933
1934
1935
1936
1937
1938
1939
1940
1941
1942
1943
1944
1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000

オンラインの黄昏

紀田順一郎

パソコン
ミステリ オンラインの黄昏

Printed in Japan

1984年4月15日 第1版第1刷発行

著 者 紀 田 順 一 郎

© 1984年

発 行 者 菊 地 喜 三 次

印 刷 所 誠 和 印 刷 株 式 有 限 公 司

製 本 所 株 式 有 限 公 司 鈴 木 製 本 所

発 行 所 株 式 有 限 公 司 三 一 書 房

東京都千代田区神田駿河台2の9

電 話 03 (291) 3131 ~ 5 番

振 替 東 京 9 - 84160 番

郵便番号 101

落丁・乱丁本はおとりかえいたします。

目 次

第一章	FORMAT	5
第二章	LOAD.....	29
第三章	INPUT	47
第四章	PRINT	69
第五章	GOSUB	97
第六章	RETURN	127
第七章	KILL	157
終 章	REM	183
解説対談	矢野 一隆.....	217

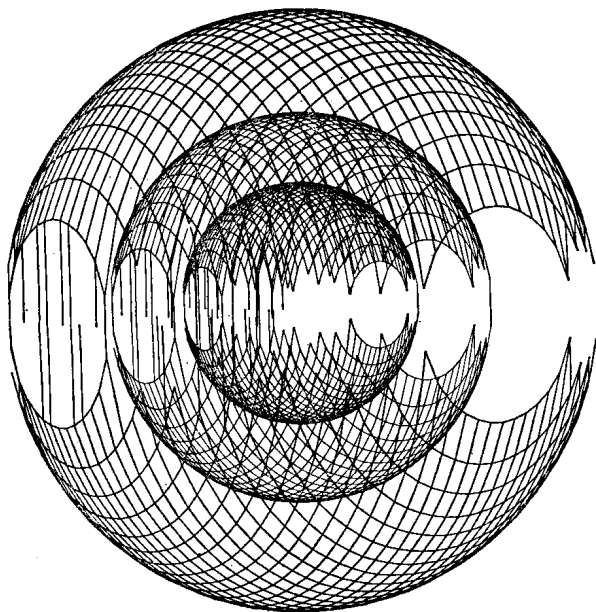
主要登場人物

- 大滝 博夫
セキユリテイー・アナリスト
- 早良永都子
その愛人
- 早良 直樹
永都子の夫、中央信金勤務
- 早良 裕
直樹の義弟、ハッカー
- 早良 栄一
直樹と裕の父親、元建築士
- 杉崎浩一郎
中央信金電算室次長
- 中野 普源
失踪したプログラマー
- 垣内 二郎
マイコン店主任
- 志村 仁
マイコン店々員
- 今里 笑子
マイコン店アルバイト
- 井ノ部信也
歯科医
- 矢島 晃
日本電算機実務協会・調査部長
- 上松 雄一
マイコン・クラブ会長
- 石本とき子
スーパーマーケット、パート
- 山村 由吉
秋葉原へ裏通りの大統領
- 広田 某
零細ソフト屋
- 井草 行雄
照明技師

オンラインの黄昏^{たそがれ}

この小説はすべてが完全なフィクションです。背景や掲載のプログラム、事例をはじめ、人名、地名、その他いっさいの固有名詞は現実のものとは関係ありません。

第一章 FORMAT



秋葉のマイコン店の朝は早い。

国電の秋葉原駅から百メートルほどの、ラジオ中央ビル六階にあるマイコンセンター・ROMでは、社員の志村仁が、たったいま納品されたばかりのモニターとプリンター在中のダンボール箱を、大汗かきながら店内へ運び込んでいるところだった。十時の開店まで、あと一時間しかない。そのあいだに十個以上の新製品をディスプレイしておくよう、主任の垣内から言いつかっていた。けさの六時ごろ、アパートに電話がかかってきたのである。

「人使い、荒いなあ」

「どうせ、もう起きる時刻だろう？ 昨日電話したら留守だったんでね」

「木曜は定休ですよオ」

志村は悲鳴に近い声をあげた。プログラマーをしていた頃、夜中に会社から呼び出しがかかってくる時に、なんともやりきれない気持ちになったことを思い出していた。

「マイコン店に休みなし。それにボーナス・シーズンに入るんだからね。頼むよ」

主任は早口にまくしたてると電話を切ってしまった。ボーナス・シーズンというのは、客がふえるという意味か、それとも志村のボーナス査定のことか……。大あくびをすると志村は立てつけの悪い窓をあけた。

「オ・ハ・ヨ」

バイトの今里笑子あみこが店に入ってきた。真赤なTシャツにグリーンのミニという姿である。重いモニターの箱をかかえていた志村は、いっそう顔をしかめながら言った。

「あのね、ウチはBASIC・ZONEじゃないんだよ」

BASIC・ZONEというのは、このビルの一階下に新しく進出してきた店で、数人のマイコン・ギャルに派手な制服を着せて客の眼を引いている。志村は笑子がそれと同じ配色の服を着ているのがカンにさわった。

「あら、いいじゃない？ ダサい男ばかりの店は、これから流行はやらなくなるわよ。いつも主任が言っているじゃないの。これからは一般大衆が相手だなあ、って」

「能書きはいいから、そのプリンターの箱、中へ入れてくれよ」

「なんだ、主任から言われて飛んで来て見れば、重労働ってわけ？ 女の仕事じゃないわよ」

「マイコン店に軽労働なし。これは永遠の真理ですよ。当方としては、あんたを逞しい女性として採用したんだからね」

「ふん、プロレスじゃあるまいし」

笑子は白のシヨルダーバッグをカウンターに投げ出すと、膝を閉じて豊かな腰を斜めにひねると、かみこんでケースを持ちあげた。白い太腿がチラリと露出した瞬間を、志村は見逃がさなかった。

「ええと、『野球拳』は在庫あったっけ？」

「『野球拳』どころか、『女子寮のぞき』も『エミちゃん危機一髪』も、みんな在庫切れよ。まったくエッチな人ばかりといったらありゃしない」

「時代の流れだよ。なにしろ一般大衆が相手なんだからね。秋葉は文化人の集まる所じゃないんだ」

志村は力をこめてダンボールの蓋をはがした。ビニールで包装された流行のプリンタ・プロッタが

現われた。

「デザインはイマイチだな。これからはデিজィーホイール・プリンターの時代だと思うけどな。……そのモニター、引っぱり出して、PC60の傍に置いてくれないか。電源はとらなくていい」

しばらくの間、二人は無言で働いた。箱を一ダースほど、カウンターの奥の通路に積み上げ、表面に記されているシリアル・ナンバーを台帳に写し取った。プリンター・プロッタはどうせ売れそうもないので、奥のショーケースからディスクを二、三台はねて、打ち出しのサンブル紙を置き、へこれからはデিজィーホイールか、プロッタか！ 特価110000円と書き添えた。

最後に、通路の脇にソフトの平台を出さなくてはならない。こいつは去年のマイコンショーで、親会社のレマン音響が出版ブース用に買ったものを流用しているのだが、重いうえに、車のすべりが悪い。

「まったくウ……。儲かっているんだから、ワゴンの一つぐらい買いなさいよ」

笑子が力まかせに引っぱったところ、左の車輪のゴムが外れてしまった。

「困るなあ。まったく、気はやさしくなくて力持ちとくるんだから。さあ、ちよつと持ちあげて！」

志村が膝をついた時、続いてしゃがみこんだ笑子がバランスを崩して、倒れ込んできた。咄嗟に志村が抱きかかえようとして車から手を離れた途端、平台は大きな音を立ててガラスのショーケースの上に倒れかかった。

「おお、おお、朝っぱらから派手な光景を見せつけてくれるでねえかよ」

浅黒い顔に金盞眼の垣内二郎が入ってきた。「まったく、うちの社員は卑猥で困るよ」

「すいません、主任。ちよつと車輪が……」

「車輪の下か。ヘッセ言うたって、おめえらの教養じゃわからんだろう。見ろよ、カウンターのガラ

スが割れちまつてるじゃねえか。開店まで、あと十五分しかねえぞ！」

「エッチ！」

起きあがりざま、笑子から横腹にいやというほど肘鉄を食った志村は、てれ笑いをしながら、

「主任、ガラス屋はすぐ来るかなあ。それに、こんなところで作業されたんじゃ、商売になりませんよ」

「だから、どうしたというんだ。奥の常備品（ジョウビョウヒン）の入ってるケースとサイズは同じだから、早いとこ、交換するんだ。笑子、早く箸を持ってこないか」

「笑子、笑子って、そう気安く呼んでもらいたくないわねえ」

「みなさんに笑われてます、か」

垣内は、彼女の口癖を真似たが、こわい顔で睨まれると、おどけた表情で挙手の礼をした。

2

垣内二郎は高卒で秋葉の電機業界へ入って、今年でちようど二十年目になる。家電販売の大手・石橋電気を振り出しに、四回ほど店を変わった。半年ほど前に引き抜かれてこの店の主任となった。パソコン取扱いの歴史は他店より長いので、それなりのノウハウも蓄積されており、坪当りの売上げでは負けないつもりだが、昨今の変化にはいささか戸惑い気味である。以前はパソコンといえば、理系——すなわち理工科の学生の玩具であったものが、この二年ほどの間に小学生や中年のサラリーマンなど、昔だったら店に足も踏み入れない客層が急激にふえてきた。その連中が、もしかしたらステレ

オのコンポと間違えているのかと思うほど、パソコンの本体とディスプレイ、プリンタなどのセットを至極あっさり買っていく。

それはいいとして、何もかもわかったような顔をして一式を買った客から翌日電話がかかってくることもある。

「もしもし、いまソケットを挿し込んで、モニターの画面に英語が出たんですが、ここからどうすればいいんですか？」

「どうすれば？　そこからプログラムを自分で打ち込むか、カセットかディスクでロードするんですよ」

「ロードって何ですか？　プログラムはどこにあるんですか？」

「もしもし、お客さんはパソコンで何をしたいんですか？」

「そりゃ、計算とか、麻雀とか」

「マニュアル読みましたか？」

「マニュアルって何だね」

「弱ったな。説明書ですよ」

「ちよつと見たが、一言もわからん」

「でも読んでいたかないと」

「そんな時間はないね。サービスマンはいないのかね」

「あの、パソコン屋はいまのところ手がいっぱい、サービスマンなどとても……。ご来店いただければお教えしますよ」

「そうか。それならもう、おまえの店からは買わないからな」

どうぞ、と返事したいところだが、そこは商売。適当に謝って電話を切る。しかし、この種の客が二日に一遍は現われるようになる、パソコン店としても考え込まざるを得ない。まだ大量販売の家電製品なみに売るには、少し早すぎるのではあるまいか？

……垣内は時計を見た。午前十一時ちょっと過ぎ。金曜日は夕刻からが勝負だが、今日は学生が昼前から押しかけている。ゲームをデモしている機種の前から離れない中学生、ディスプレイのゲームソフトをあさる大学生。その中で、先刻から垣内がそれとなくマークしている一人の男がまじっていた。

年格好は三十前後、蒼白い、ちよつと女性的な繊細な顔で、背広は平凡なグレーの安物だが、新調らしく、長身の体型にびつたり合っている。

垣内が注目したのは、男が左手にかかえている黒いビニカフ製の、「麗」というネーム入りの書類入れだった。この店は万引が多く、「当店にて発見した万引は、理由の如何にかかわらず所轄署に引き渡します」という掲示を二カ所に出しているほどだから、とかく客の所持している袋物が気になつて仕方がない。

長年の経験で、男が万引でないことはわかったが、気になるのはその書類入れのサイズであった。真新しいもので、縦十一インチ、横十五インチの大きさだった。数字をはっきり知っていた理由はほかでもない、一昨日渋谷のサブライ専門店が持ち込んで来たプリンタ用紙入れと同一のものであったからだ。垣内は「これは大型コンピュータ用紙だから、うちじゃ売れないよ」と断わった。

「プログラマーかな」

垣内は職業的コンピュータリストに、店内をジロジロ見られるのを好まない。ある時、志村から「パソコンなんて玩具ですよ。この店は玩具屋じゃありませんか」と言われて、一言もなかったとい

う苦い記憶がある。何といわれようと、ゲームソフトの売りあげが機材のそれを上廻るのだからやむを得ない。

その男がプログラマーにちがいないということに、垣内は確信を抱いた。ウィンドーを覗き込んでいる眼が充血しているのも、長時間ディスプレイでこまかな数字を睨んでいなければならぬ職業に特有のものと思われた。のみならず、ミュージック・キーボードとかトレーニング・キットのようなアマチュア受けするような商品には目もくれず、店の隅に置いてあるカードセンサーや安定化電源、それに四チャンネルのUARTボードなどの、それもディスカウト品に上げ上げと眺めいつては、値段カードと見くらべたりしているのである。

ひよっとすると外資系の連中かもしれない……。垣内は、ふと思いついた。最近、彼らは秋葉に出廻っている外国製品の海賊版に神経を尖がらし、裁判に持ち込むために普段から情報を集めているという噂であった。垣内の店では、そのような汚れた仕事に手を出していないが、それだけにうろろう嗅ぎ廻られるのは気分が悪い。

「声をかけてみるか……」

垣内は呟いた。しかし、彼の店は無愛想で通っている。客に向かって、何をお探ですか、などと言い出そうものなら、客よりもまず店員の方が仰天してしまふだろう。

「お客さん、そんな古い機種、もうウチじゃあ扱ってませんよ」志村が電話で苛々したように怒鳴っている。垣内はそちらのほうに關心を移した。

「古い機種ってなんだい、お客さんの言うことはよく聞いてやれよ」

「いや、SORD9M20Rが欲しいっていうんですよ」

「そいつは古いなあ。もう、三、四年前の機種じゃないかな」

「もしもし」志村は受話器に向かって怒鳴った。「あのね、ウチは中古屋じゃないんだから。え？
サンヨーのPHC—800？ それも置いてませんね。なんですって？ STT9201KCK？ 聞いたこ
ともありませんね」

「ちよっと替わろうか」垣内は志村から受話器をとった。「もしもし、古いパソコンをお探しなん
ですか？」

「いえ、古くても新しくてもいいんです」高校生のような、子どもっぽい声だった。「どこかに売
てませんか？」

「探せばあると思いますかね。もう一度型番を言ってもらえませんか」
「いや、もういいんです。それじゃ……」

どういうわけか相手はそっけない調子になり、唐突に電話を切ってしまった。
「なんだ、こいつは？」垣内は眉をしかめた。「いまどき、三年前の機種なんか扱ってる店があるも
んか」

「いや、偶然かどうか、この前も同じ機種のことを聞いてきたお客さんがいましたよ。たしかSOR
D9M20Rでした」

「どうも、一般大衆は了解に苦しむね。あ、いらっしやいませ」

垣内は麻雀ソフトを差し出した客と応待しながら、何気なくさきほどの黒い書類入れを持った男を
眼で探した。

男の姿はなかった。

正面の壁にかかっている、いかにも月三千円ぐらいのリースと思われる下手なエッチングにも見飽きて、大滝博夫は冷めたコーヒーの最後の一滴を口ににした。そのとき、永都子が店に入ってきた。

「お待たせ」

一種用心深そうな笑みをうかべ、他の客から顔の见えない席に坐ると、スーパーの袋を脇に置いた。白い肉づきのいい手首に腕時計の鎖が食いこんでいるのを見ながら、大滝は不機嫌に言った。

「もう帰ろうかと思つてたんだ」

「あら、あたし、何分遅れた？」

「四十分だよ。知つておくせに。二時半つていうのは、きみが指定したんだから」

「そう言わないですよ。年寄つていうのは、とっても気まぐれだし、ものすごく手がかかるんだから。きょうだつて早目にお昼にしようと思つたら、まだお腹がすいてないだの、サンドイッチなんか食べたくないだのつて、文句並べるんだもの。これでも、スーパーの売り出しだからつて、やっと振り切るように出てきたのよ。もう、苛々しちゃう」

永都子は、傍らにウェイターが来たのに気がつくくと、「ホット、ちょうだい」と言つてから話題を変えた。

「それ、おニュー？」

「まあね」

大滝は薄地のグレーの背広のボタンをかけ直すと、足元にあつた黒い書類入れを、いましがた空に